

# 奈良市議会議員

# 森田 一成

Morita Kazunari



## 市長 仲川 新齋苑建設計画

# 理解なき強行に反対

×コスト

×安全

×利便

×地元合意

## 議会の監視が機能

新齋苑建設のための予算が盛り込まれた新年度予算を審議する、奈良市議会3月定例会は、仲川元庸市長の予算案を否決し、会派を超えた市議提案の修正案を可決しました。仲川市長の建設計画は、コスト面、安全性、利便性、地元合意が得られていない点を議会は問題視して否決し、仲川市政には民意の「ノ」が突き付けられた格好です。森田一成は予算特別委員会で仲川市長の市政運営方針を厳しく追及しました。

新齋苑建設が地すべりや土石流などで周辺に与える影響は想定しにくい」という結果が出ている。今回の新齋苑建設事業においては「奈良の都の葬送の場」としてふさわしい、自然に包まれた新齋苑」というコンセプトであり、この自然に溶け込んだ素晴らしい施設を建設していきたい。

森田 市長は当選後「別の候補地も考えなければならぬ」として、一旦この横井町山林への建設を撤回され、再びここを候補地に

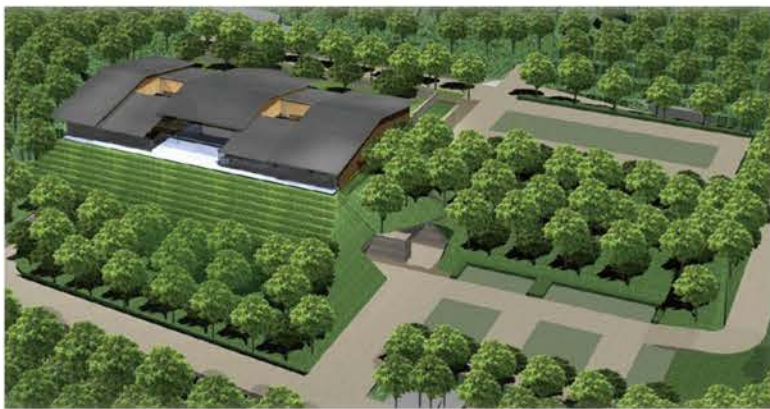
森田 新齋苑建設について、建設候補地の地元・鹿野園町の住民のみならず、土砂災害警戒区域や地滑り防止区域付近に新齋苑が建設されることに大変不安を感じておられる。こんなに地元住民のみならず不安を与える場所に新齋苑を建設しようと、候補地を選定したこと自体が誤りではなかったか。

森田 総合的に判断したということだが、国から「地すべり防止区域」に指定されている。鹿野園町の住民の皆さまは、長年にわたり危険と隣り合わせで暮らしておられる。さらに新齋苑が建設されると地下水の流れなど、自然環境の変化による影響が考えられ、住民の皆さまの不安を払拭しない限り、住民の合意形成は無理。市長はどのようにしてこの不安を払拭するのか。

また新齋苑建設候補地は、古都奈良の文化財として世界遺産登録された春日山原山林から連なる大和青垣国定公園に位置している。なぜ国定公園の山を切り開いてまでもこの地に造らせるのか。

市長 計画地の横井町山林は周辺250m以内に住居がないこと、市街地からの距離や利便性、法的規制、周辺状況、経済性などを考慮し、総合的に判断した。「地すべり警戒区域」「土石流警戒区域」については、調査の結果「新齋苑建設による影響は想定しにくい」という結果になった。今後この調査結果を住民の皆さまにご説明し、不安解消に努めていきたい。

市長 どのように不安を払拭するかとのことだが、今回の「新齋苑周辺の地質状況の調査(八千代エンジニアリング)」からは、「新



決めた。二転三転し市民に不安感と、地元の批判を浴びる結果になっている。一旦、撤回されたことは結果的に誤りではなかったのか。この間、無駄な時間を費やしたことになる。

市長 この60年近く市ではさまざまな場所を候補地として事業を進めようとしてきたが、この間、市がそれぞれの候補地について交渉などを進めた結果として断念せざるを得なかったとしても、それらの時間をご指摘のように無駄な時間であったとは考えていない。

森田 現候補地は根強い反対がある。ほかに候補地を検討するつもりはないのか。また募集したパブリックコメントに「ほかの候補地を検討すべき」との意見はなかったか。

市長 パブリックコメントにおいて「ほかの候補地を検討すべき」との意見はあった。

森田 現候補地にこだわり十分な住民合意が得られず、平成28年度中の計画決定と用地買収ができなかった場合、市長はご責任を取るのか。コスト面や安全性、利便性、地元住民の皆さまの理解を得られていない中、現在の建設計画を強行しようとするのはおかしいのではないか。

市長 新齋苑建設事業については、合併特例債の活用期限である平成32年度末をめどに事業を進める。そのため平成28年度には都市計画決定と用地買収を行う必要がある。地元住民のご理解を得られるよう誠意を持って努力してまいります。